

( 公 印 省 略 )  
三 人 第 7 6 号  
令 和 5 年 8 月 1 日

各 区 長 様

市民生活部長 降松 俊基

情報誌「こらぼーよ 第65号2023・夏」について  
(依頼)

残暑の候、貴職にはますますご清栄のこととお喜び申しあげます。

日頃は、まちづくり地域活動の振興について、格別のご理解とご協力を賜り厚くお礼申しあげます。

さて、別添のとおり三木市男女共同参画センター情報誌「こらぼーよ 第65号2023・夏」をお届けいたします。

つきましては、誠に恐縮に存じますが、貴地区での回覧をお願い申し上げます。

#### 記

- 1 送付物                    ・ 三木市男女共同参画センター情報誌  
                                  「こらぼーよ 第65号2023・夏」
  
- 2 お届けの枚数            各地区の回覧枚数

【担当課】市民生活部 人権推進課  
男女共同参画センター  
(三木市教育センター内)  
TEL : 89-2331

～市民がつくる～  
三木市男女共同参画センター情報誌

# こらぼよ

こらぼよとは  
Collaboration  
コラボレーション  
(共同・協働)と  
～しようよの組合せ

みんなで  
男女共同参画社会実現  
に向けて活動しようよ

第65号 2023・夏


夏号のテーマは  
みんなが働きやすい職場とは？



● 将来長く働くために必要な事を考える

● 産休を取らずに退職した私

～次の世代によせて～

  
男性目線で女性が働きやすい職場を  
考えてみる

## \*\*\* 令和5年度 みきウィメンズすてっぷあっぷ塾オープン講座を開催します! \*\*\*

- 第1回-9月3日(日) 講師：前田 良さん パパは女子高生だった～自分らしく生きること～  
第2回-9月23日(祝) 講師：辻 由起子さん つきあってるならこれって当たり前?～自分も相手も大切にするための講座～  
第3回-10月15日(日) 講師：上村 茂仁さん 自分の生き方を自分で判断するための性教育



会場：三木市立市民活動センター/0794-82-0564  
時間：いずれも 13:30～15:30  
申込：三木市男女共同参画センター/0794-89-2331





「ジェンダーレンズで何が見える？～誰もが生きやすい私たちのまち～」

## 男性目線で女性が働きやすい職場を考えてみる

ジェンダーギャップ指数 2023 年版が先日発表されました。日本は前回の 116 位から順位を落とし 146 か国のうち 125 位でした。労働参加率、同一労働での賃金格差など、経済分野も 123 位と低い評価となっています。

近年の企業経営では、多様な年齢や性別、人種や国籍、キャリアや働き方など様々な人材を生かす「ダイバーシティ経営」の考え方が取り入れられています。多様な個を活かすことが技術革新や新しい価値創造につながるのだとか。

現在の社会で女性が置かれている状況はどうなのでしょう？男女平等を意識したジェンダーレンズで私たちの普段の暮らしを見てみると、日常の家事、家庭での育児や介護などの大部分を女性が担っています。無意識の思い込みで、「家事は女性の仕事」だと思い込んでいるからでしょうか。

無意識の思い込みは変えていく必要があります。しかし、長年たくさんの人が常識だと思っていた意識と役割分担を変えていくには時間がかかります。

これまでの男性目線で女性が働きやすい職場を作ろうとすると、「男性は何でも知っていないといけない」とか「知らないことは恥ずかしい」という無意識の思い込みからついつい男性の思い込みのまま物事を進めてしまいがちです。

一緒に働いている女性の意見に分かったふりをして理解できていなかったり、そもそも女性に聞くことが恥ずかしかったり。そうして出来上がった仕組みには一緒に働いている女性たちの意見はなかなか反映されません。

女性にとって働きやすい職場にするにはどうしたらいいのでしょうか？まず、男女を問わず働いている人が、職場でも家庭でも役割を果たせるように、柔軟な働き方が出来ることが、働きやすさにつながるのではないのでしょうか。その上で、職場で働いている一人一人の意見や要望を同じ職場のメンバーで議論できることも、働きやすい職場であり続けるために必要なことだと思います。



女性にとって働きやすい職場をめざすことは、家族の介護など仕事以外の役割を担っている男性の働きやすさにもつながります。従来の働き方にとらわれず、様々な人が力を発揮できる職場が増え、誰もが働きやすくなることを願います。

(編集委員 1)

## 産休を取らずに退職した私 ~次の世代によせて~

私が7年勤めた会社を退職したのは、今から20年前のことです。第一子を妊娠し、膨らみ始めたお腹が目立ちだした妊娠7カ月ごろでした。結婚したときは辞めることを考えていませんでしたが、妊娠し、つわりで出勤するのがしんどいときに、「あれ？私本当に働き続けられるのかな？」と思いました。

まず、環境的にも働けるのかを考えてみました。

- ・夫は全国転勤族。夫が転勤になったら私はどうしたらいいの？
- ・私も夫も実家が遠く、両親・義両親は頼れない。
- ・勤務先の営業時間は9時から23時までで、早番や遅番がある。時短勤務が終わって、子育てしながらこの時間帯で働けるの？
- ・夫も私も土日仕事があるシフト制の仕事。土日にも子どもを預けられる場所はあるの？

この時点で、「あかんのちゃう？」と思いました。もっと「無理じゃない？」と思ったのが、女性パート社員の会話を聞いてしまったときです。

「〇〇さん、産休終わって戻ってくるけど、どこの部署に来るんだろう」

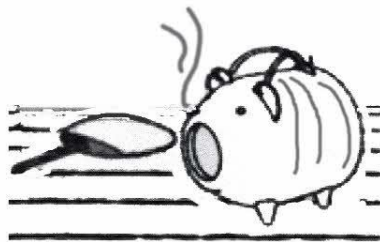
「残業もできない人に来られたら迷惑だよ」

と、他の人が話しているのをたまたま耳にし、「こんなに嫌がられるくらいなら辞めよう」と思いました。

子育てしながら仕事をしていた女性先輩にも相談してみましたが、「親の協力がなくて無理やろうね」と言われ、「やっぱり辞めよう」と退職することにしたのです。

あれから20年たっていますが、私の元職場の環境は、残念ながら特に変わっていないようです。

子育て中は、女性だけではなく男性も突然休んだり早く帰宅したりしなければいけないこともあるでしょう。女性は職場に申し訳なく思いながら家に帰り、男性は家族に申し訳なく思いながら職場に残り、お互い無理して子育てと仕事を両立させているように感じます。



みんなで知恵を出し合えば、女性も男性も働きやすい職場が実現するのではないのでしょうか。そのためにも、女性も自分が働き続けるためには何が必要なのかを考え、少し声を上げてみませんか。

(編集委員 O)

# 将来長く働くために必要な事を考える



私たちが人生設計を立てる時、自分の体力や経済状況に応じて生き方を考えます。健康・経済力が何処まで持続的に安心して維持出来るのか、生きていくためには必然の課題となってきます。現在、定年や年金受給の年齢もどんどん引き上げられ、現役で働く期間が延びています。

日々、気力・体力の衰えを感じながら働くことを考えると不安になることも仕方ありません。その中で残された大切な時間の多くを働くことに割きながら、人生を充実させる方法は何かと考えました。

まず社会全体の意識改革が必要と感じます。年齢、性別問わず、これまでの個々の経験や能力を要する職場のあり方を前提としつつも、個人の体力や体調に合わせて柔軟な働き方ができるような職場環境が大切です。

次に、個人の気持ちのあり方も大事で、私にとって職場は必要とされていると感じられる場所、生きがいを感じられる場所であることが理想です。長く働き続けるためには心のありかたも重要です。(編集委員 T)

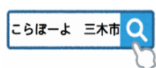
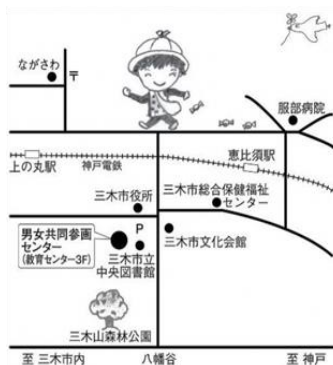
\*\*\*\*\* 今後の男女共同参画センター主催の講座 ※要:事前申込 \*\*\*\*\*

テーマ	講師	日時	会場
少子高齢化時代の男女の役割	小川 真知子さん (NPO 法人 SEAN 理事長)	8月22日(火) 10:00~11:30	自由が丘公民館
おとなも子どもも 全力で楽しむスタイル♪	馬賣 真人さん (あそぼっか代表)	9月9日(土) 10:30~12:00	三木市立教育センター
男性のための 簡単料理講座	三木市いずみ会	① 9月15日(金) ② 10月13日(金) ③ 11月21日(火) 各回とも 9:30~12:00	三木市総合保健福祉センター

## 三木市男女共同参画センター 愛称 “こらぼーよ”

三木市福井 1933-12  
三木市立教育センター 3階  
TEL&FAX : 0794-89-2331  
開館日時 : 月曜~金曜 9時~17時  
(※祝日を除く)

企画・編集: 情報誌 “こらぼーよ” 編集グループ  
発行: 三木市男女共同参画センター



ホームページからも  
ご覧いただけます



## 編集後記



就活をしていた頃、\*「くるみんマーク」と出会いました。学生の側も、就活の軸として子育てのしやすさを重視しているので、企業の努力がもっと「カタチ」として見れば、仕事と子育ての両立を前向きに考える若者が増えることと思います。

(編集委員 U)

\*「くるみんマーク」は「子育てサポート企業」として厚生労働大臣の認定を受けた証(マーク)です。

